



自立に必要なのは 「困ったときに助けを求める力」

「社会に出たら大変だから、将来は自分のことは自分でできるようになってほしい」「つまりいても、ひとりで乗り越えられる子に育ててほしい」、子供を思うからこそ、そんな願いを持たれる保護者の方は多いと思います。

では、ここで少し「自立」について考えてみたいと思います。自立とは、「何でもひとりでできること」なのでしょうか。私たち大人も、実は毎日たくさんの人に助けられながら生活しています。道に迷えば人に聞き、分からないことがあれば詳しい人に教えてもらいます。困ったときに助けを求めることは、決して弱いことではなく、生きていくためにとても大切な力です。

そう考えると、子供にとっての自立も「全部ひとりでがんばること」ではなく、「困ったときに『助けて』と言えること」なのではないでしょうか。

幼児期や小学生の時期は、まだまだ失敗したり、気持ちが追いつかなかったりするのが当たり前です。そんなときに、「困ったら大人に頼っていいんだ」「話を聞いてもらえる場所がある」

と知っていることが、子供の安心につながります。

身近な保護者や先生、学校の相談窓口や“そよ風”などの外部の相談機関など、助けを求める先はひとつでなくてかまいません。

そして、子供が助けを求めてきたときには、ぜひ受け止めてあげてください。子供の頃に「助けを求めてよかった」「話して楽になった」という経験を重ねた子供は、やがて大人になったとき、今度は誰かの「助けて」に気づき、手を差し伸べられる人に育っていくはずです。

幼い今だからこそ、
「ひとりでがんばらなくていい」
「困ったときは頼っていい」
そんなメッセージを、私たち大人が伝えていけたらと思います。

参考図書：こども看本「子どもの傷つきやすいところの守り方」 株式会社 KADOKAWA

1年間、そよ風通信をご愛読いただきありがとうございました。
来年度もよろしく願いします。

